

## Global Emerging Market Equity

## マンスリーレポート

2023年  
5月号エマージング株式（コア型運用）の運用状況  
パフォーマンス（2023年4月末時点）

円ベース

	当月	2023年度	過去1年	過去2年*	過去3年*	過去5年*
コンポジット	0.5%	0.5%	-1.2%	-4.1%	14.0%	4.8%
ベンチマーク	1.2%	1.2%	-1.7%	-2.5%	13.1%	3.4%
超過収益	-0.6%	-0.6%	0.5%	-1.6%	0.9%	1.4%

(注) コンポジットはSchroder Emerging Market Composite（運用報酬等 控除前）。ベンチマークはMSCI EM 指数。\*年率換算ベース。過去の運用実績は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。出所：シュローダー、MSCI

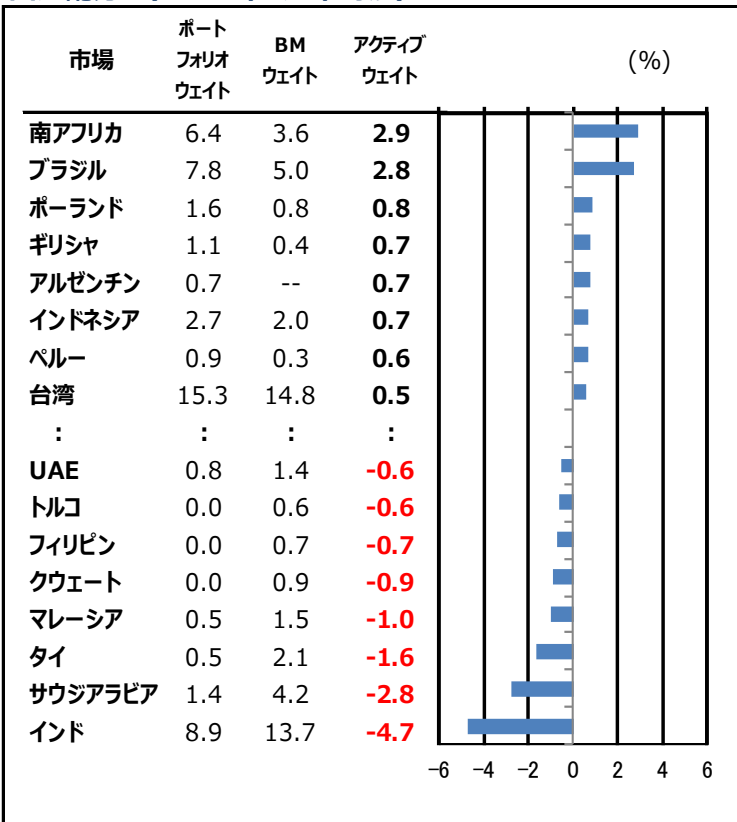
## パフォーマンスの振り返り

- 2023年4月は、BMに対しアンダーパフォームしました。なお内訳は、国別配分が-0.1%、銘柄選択が-0.5%となりました（当該分析は、コンポジット内の代表口座を分析した結果である。従って超過収益率と内訳が一致しない場合がある）。
- 国別配分では、ポーランドやブラジルのオーバーウェイト等がプラスに寄与した一方、インドやサウジアラビアのアンダーウェイト等がマイナスに影響しました。
- 銘柄選択では、南アフリカの金産出会社やインドの銀行のオーバーウェイト等がプラスに寄与した一方、中国のeコマース会社や台湾の半導体受託生産会社のオーバーウェイト等がマイナスに影響しました。

## 投資環境

- 世界の主要な中央銀行の金融政策引き締めが世界の経済成長の重しとなっています。一方で、エネルギー価格の下落や金融政策の引き締め等を背景に、物価上昇ペースの鈍化が続くとみえています。
- 新興国については、グローバルの経済成長と貿易の鈍化が重しとなっています。金融政策の引き締めについては経済成長の重しとなるものの、ほとんどの新興国、特にラテンアメリカ諸国を中心に引き締めサイクルはかなり進んでいるとみえています。米ドルについては、過去の水準から見て実質実効為替レートベースでは依然として割高な水準にあります。米国における政策引き締めがピークに達しているとの見方が強まれば、米ドルは下落することが想定され、このことは新興国の財政状況にとって支援材料となるとみえています。
- 中国経済の回復が続いていることは今年の支援材料となるとみえています。製造業については、世界的な需要減速の影響を受け、回復に遅れが見られているものの、サービス業が回復を牽引しており、住宅関連指標も改善しつつあります。

## 国別配分（2023年4月末時点）



注：当戦略の代表ファンド「SISF Emerging Markets」の国別ウェイト。・オーバーウェイト或いはアンダーウェイトしている市場の中で、主要なものを記載。・BMはMSCI EM 指数。

出所：シュローダー、MSCI

組み入れ銘柄（2023年4月末時点）  
アクティブウェイト 上位5銘柄

	銘柄名	国（市場）	業種	アクティブ
1	Samsung Electronics	韓国	情報技術	3.2%
2	Taiwan Semiconductor	台湾	情報技術	3.0%
3	AIA Group Limited	中国	金融	2.1%
4	HDFC Bank Limited	インド	金融	1.9%
5	Midea Group Co. Ltd. Class A	中国	一般消費財・サービス	1.8%

注：当戦略の代表ファンド「SISF Emerging Markets」の組み入れ状況。当戦略をご紹介する上でご参考として掲載するものであり、当該ファンドの取得の勧誘を意図するものではありません。当該ファンドは日本国内では販売されていません。出所：シュローダー、MSCI

## Global Emerging Market Equity

2023年  
5月号

## マンスリーレポート

エマージング株式チーム運用残高：36,973百万ドル（2023年3月末時点）  
（約4兆9,207億円、1ドル=133.090円で換算）

<エマージング株式チーム主要戦略> \*当レポートリリース時点でソフトクローズとなっている運用

戦略名	戦略概要
グローバル・エマージング株式 アルファ運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>MSCI Emerging Markets Indexをベンチマーク</li> <li>超過収益源泉を<b>銘柄選択</b>とし、<b>確信度の高い銘柄にフォーカス</b>することにより、超過収益獲得を目指す。</li> </ul>
グローバル・エマージング株式 コア運用*	<ul style="list-style-type: none"> <li>MSCI Emerging Markets Indexをベンチマーク</li> <li>超過収益源泉を<b>国別配分</b>と<b>銘柄選択</b>とし、<b>安定的な超過収益獲得</b>を目指す。</li> </ul>
グローバル・エマージング株式 オポチュニティーズ*	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ベンチマークを意識しない、トータル・リターン追求型戦略</b></li> <li>株式を中心に、市場環境に応じて機動的に債券／キャッシュへも投資</li> <li>株式部分では、市場と銘柄を厳選し、集中投資を行う</li> </ul>
グローバル・エマージング株式 スモール・カンパニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>MSCI Emerging Market Small Cap Indexをベンチマーク</li> <li>超過収益源泉を<b>銘柄選択</b>とし、ベンチマークを意識しないポートフォリオ構築により、超過収益獲得を目指す</li> </ul>
地域特化型 ・中南米、東欧*	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域のMSCI指数をベンチマーク</li> <li><b>地域専任のアナリストを配置</b>し、各地域に特化した運用でアルファを追求</li> <li>超過収益源泉は<b>銘柄選択80%/国別配分20%</b></li> </ul>
フロンティア市場株式*	<ul style="list-style-type: none"> <li>MSCI Frontier Marketsをベンチマーク</li> <li><b>経済発展の初期段階にある市場への投資による収益獲得</b>を目指す</li> <li>超過収益源泉は、<b>銘柄選択80%/国別配分20%</b></li> </ul>

本資料は、機関投資家及び販売会社を対象とした情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません（本資料は個人投資家への使用を目的とするものではありません）。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。コンポジット・パフォーマンスについての詳細はお問い合わせください。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、弊社はその内容の正確性あるいは完全性について、これを保証するものではありません。本資料に記載された特定のファンドに関する情報は、本資料でご紹介する運用戦略等を説明するための参考情報として記載したものであり、当該ファンドの募集その他勧誘を目的としたものではありません。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料中に個別銘柄についての言及がある場合は例示を目的とするものであり、当該個別銘柄等の購入、売却などいかなる投資推奨を目的とするものではありません。また当該銘柄の株価の上昇または下落等を示唆するものではありません。本資料に含まれる第三者機関提供のデータは、データ提供者の同意なく複製、抽出、あるいは使用することが禁じられている場合があります。第三者機関提供データはいかなる保証も提供いたしません。MSCIは、本資料に含まれるいかなるMSCIのデータについても、明示的・黙示的に保証せず、またいかなる責任も負いません。MSCIのデータを、他の指数やいかなる有価証券、金融商品の根拠として使用する、あるいは再配布することは禁じられています。本資料はMSCIにより作成、審査、承認されたものではありません。いかなるMSCIのデータも、投資助言や投資に関する意思決定を行う事（又は行わない事）の推奨の根拠として提供されるものではなく、また、そのようなものとして依拠されるべきでもありません。第三者提供データに関して、本資料の作成者あるいは提供者はいかなる責任を負うものではありません。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー・グループおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。

#### 投資一任契約に基づいた運用を前提とするお客様へ

本資料に記載されている特定のファンドに関する情報は、本資料でご紹介する運用戦略等を実現する際に投資一任契約口座にて投資対象となる有価証券を例示することを目的としたものであり、弊社が当該ファンドの募集その他勧誘を目的としたものではありません。ご契約に際しては、必ず契約締結前書面をご熟読ください。

【費用等について】弊社が投資運用業としてお客様に資産運用サービスをご提供する際には、運用報酬の他、組み入れ資産の売買手数料、保管費用等をお客様にご負担いただけます。運用報酬及びその他の手数料、費用等は、契約の種類、契約資産残高、運用手法、及び運用状況等により異なるため、あらかじめその料率やその上限額等を表示することはできません。

【リスクについて】 受託資産の運用には、組み入れ有価証券等の価格変動リスク（ファンド等かかる有価証券等がさらに組み入れている対象物の価格変動リスクも含みます）、金利や金融市場の相場の変動リスク、十分な流動性の下で取引が行えない市場流動性リスク、及び株式その他の有価証券の発行体の信用リスク等の影響を受けます。また、外貨建ての資産は、為替変動リスクの影響も受けます。また、デリバティブ取引を利用する場合、取引開始時に差し入れた証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。また証拠金の額や算出方法は取引の内容等により異なるため、取引の額の当該証拠金の額に対する比率は表示することができません。従って、これらの影響により組み入れ資産の価格が変動して損失を生じ、投資元本を毀損する可能性があります。受託資産の運用によって生じた損益はすべてお客様に帰属します。

#### シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号 加入  
協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人  
投資信託協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

#### 投資で、変化を加速

1870年（明治3年）、日本初の国債発行の主幹者として鉄道敷設に貢献したシュローダー。

この一つの投資が日本近代化の一步となったように、  
投資は世界を変えていく力になると私たちは信じています。

「増やす」だけじゃない、よりよい明日をつくる投資を、これからも、皆さまとともに。

